

令和6年度PDCAサイクル(がんサポートチーム)

P

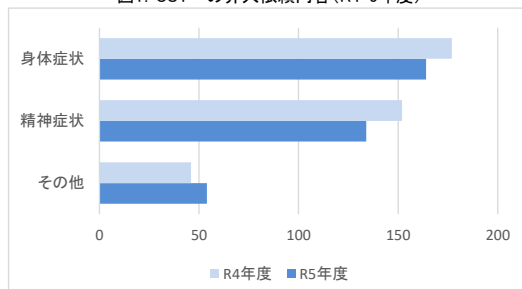
計画



【目 標】 がんサポートチーム(以下、CST)活動や研修会開催を通して、院内全体の緩和ケアの充実を図る

- ・CSTへの介入依頼は身体症状・精神症状へのケアを中心として多様な内容が含まれる(図1)。
- ・がんの苦痛症状に対して、医療スタッフ全体の緩和ケアの知識・技術を強化する必要がある。
- ・その他として、倫理的問題やスタッフへのケアなど個別性の高いケアが求められている。

図1. CSTへの介入依頼内容(R4・5年度)



D

実行



1. CST活動

- ・CST依頼があった患者に対する直接介入のほか、依頼元である医療スタッフとの連携・協働を行った。
- ・CSTへの介入依頼内容を精査し、依頼傾向の推移を分析した。

2. 研修会開催

- ・医療スタッフの知識向上のために、緩和ケアに関する研修会を実施した。

3. ケアの質向上

- ・病棟カンファレンスに積極的に参加し、必要に応じてアドバンス・ケア・プランニング(ACP)や症状緩和マニュアルなどについて関係スタッフへ伝達した。
- ・病棟開催の倫理カンファレンスやデスカンファレンスについて、CSTメンバーで参加した。

C

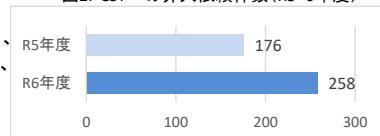
評価



1. CST活動

- ・依頼数は258件であり、前年度から増加した(図2)。
- ・主な依頼内容は身体症状へのケア(249件)、精神症状へのケア(180件)、その他(107件)であった。ほとんどの依頼に身体症状へのケアが含まれ、中でも痛みに関する依頼が多かった(図3)。
- ・CSTメンバーによる直接介入だけでなく、依頼内容や状況に応じて多職種カンファレンスへの参加やIC同席なども適宜行った。

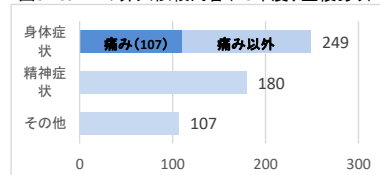
図2. CSTへの介入依頼件数(R5・6年度)



2. 研修会開催 (※括弧内は参加者数)

- ・院内外の多職種を対象として、オンコロジーセミナー(74名)や緩和ケア研修会(28名)を実施した。また、院内看護師を対象としてがん看護研修I(64名)、がん看護リクナース研修(17名)を実施した。

図3. CSTへの介入依頼内容(R6年度、重複あり)



3. ケアの質向上

- ・病棟で開催された倫理カンファレンス(3部署 3件)、デスカンファレンス(7部署 9件)にCSTメンバーが参加した。

A

改善



【来年度に向けた取り組み】

1. CST活動

- ・CST直接介入と病棟カンファレンスへの参加を継続し、院内の緩和ケア質向上を目指す。
- ・依頼元や関係多職種とのカンファレンスや効果的な情報共有を引き続き行う。

2. 研修会開催

- ・院内外の多職種に向けた研修を継続する。
- ・痛みについては来年度のオンコロジーセミナーのテーマとし、院内における対するケアの質向上を図っていく。

3. ケアの質向上

- ・「症状緩和マニュアル」改訂を行い、院内スタッフに周知する。